

議案第 27 号

第 11 次三朝町総合計画について

第 11 次三朝町総合計画を別添のとおり策定することについて、地方自治法第 96 条第 2 項の規定による三朝町議会の議決すべき事件に関する条例（平成 21 年三朝町条例第 18 号）第 1 号の規定により、本議会の議決を求める。

平成 31 年 3 月 6 日

三朝町長 松 浦 弘 幸

第 11 次三朝町総合計画基本構想

(平成 31 年度～平成 40 年度)

第1章 町の将来像と基本理念

三朝の暮らしは、恵まれた自然、人同士の温かいつながり、観光と農林業を中心とした経済活動の中で営まれています。

三朝町においても、全国的な問題である少子高齢化の流れによる人口減少社会の到来は避けられず、私たちを取り巻く町の状況は大きく変化しています。

私たちは、この現実に向かい合いながらも工夫を重ね、未来の三朝町を創造し、町づくりに取り組んでいかなければなりません。町で暮らす一人ひとりが笑顔と元気にあふれ、いきいきと活躍できる町を目指し、10年後に向けた三朝町のあるべき姿を次のように定めます。

笑顔と元気があふれ 輝く町

この目指すべき町の将来像を実現するための「基本理念」を

「まち」と「ひと」個性が交響する町づくり

として、各分野の政策を実践していきます。

本町には自然、歴史、文化、温泉、人材など、町を彩る魅力的な資源が数多くあり、これらは本町の個性であるといえます。一方、過疎化、人口減少、少子高齢化、後継者不足などは、一般的にはマイナスのイメージを持つ現象としてあげられますが、これら本町の抱える課題もある意味、町が持つ個性と捉えます。私たちは豊かな自然の中で、これらすべての町と人の個性を余すところなく活用しながら、新しい町づくりに向かっていきます。魅力的な個性は大いに伸ばし、そうでないものは良いものと組み合わせながら克服し、すべての個性をお互いに響き合わせる（交響する）ことで、町の“プラス”につなげる町づくりに挑戦します。そして、心豊かな生活の中に笑顔と元気があふれ、全町民活躍のもと、いつまでも輝くことのできる町に向けた歩みを進めます。

“みささ”だからこそ実現できる新たな魅力を創り出し、町民はもとより町外の方からも「この町で暮らしたい」、「この町で学びたい」、「この町で生み育てたい」、「この町を訪れたい」、「この町で癒やされたい」、「この町で活躍したい」と思われるような、一人ひとりの願いをかなえることのできる町を目指します。

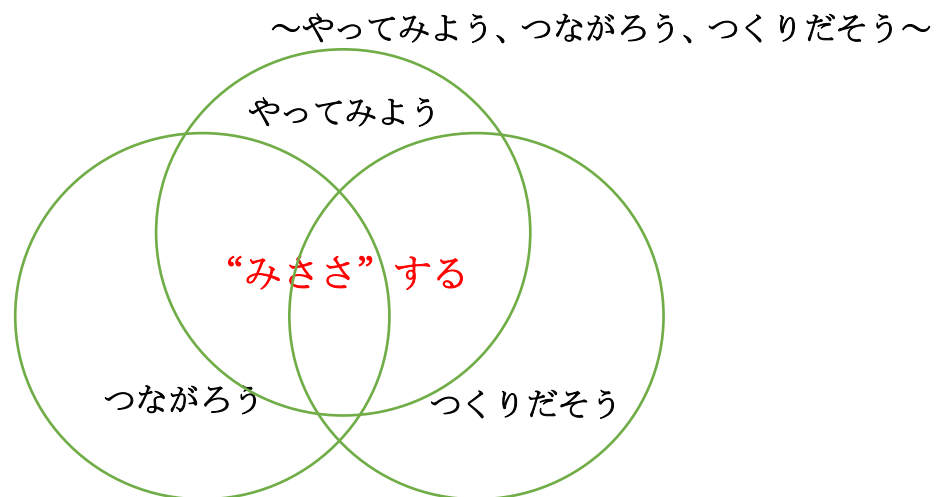
第2章 実現のための行動宣言

「実現のための行動宣言」とは、町づくりの主役となる町民が地域で元気に活躍し、“みささ”の個性を活かした町づくりを進めるためのものです。

私たちは、「笑顔と元気があふれ 輝く町」の実現に向けた心構えをここに宣言し、行動していきます。

新しい町づくりに向け町民は自ら主体的に取り組み、生活の中で地域の人との関わりを大切に、外部の人材を含む三朝町の応援団の力添えをいただきながら、何事にも積極的なチャレンジと改革の歩みを進めます。

実現のための行動宣言「“みささ”する」



私たちは、天与の三朝温泉、歴史的な遺産である三徳山、名勝小鹿溪などかけがえのない豊かで美しい自然を持つ三朝町を舞台に、町民同士のつながりを大切にしながら、温かな営みを続けてきました。

少子高齢化をはじめ、町の主要産業である観光を取り巻く社会情勢の変化、通信技術の進歩が経済と生活に直結する時代の中で、もう一度それぞれが「今の生活を支えている礎」を見つめ直してみると、未来に向けてとるべき行動が見えてきます。

“みささ”する

“みささ”するとは、新たな町づくりに向けて起こす行動を総称する言葉です。三朝において、住民と行政が共に動き、町民同士はもとより町を訪れる人とつながり、未来に向けて新しい「みささ」を創り出す、そんなことをイメージしています。

私たちは、「やってみよう」、「つながろう」、「つくりだそう」という3つのアクションを合言葉に、「笑顔と元気があふれ 輝く町」を目指した行動を展開していきます。

～ “みささ” する～

やってみよう

時代の変化を的確に捉え、あらゆる分野において“みささスタイル”で新たな取組みに挑戦します。社会全体が持つ変革に向けた原動力を活用し、発展的に新しい「みささ」を創ります。

つながろう

人、地域、観光業、商工業、農林業など、あらゆる分野の垣根を越えたつながりを活かしながら町を発展させていきます。また、その中で育まれる福祉や防災への意識を高め、“みささスタイル”でつながる町づくりに取り組みます。

そして、つながりの中で生まれる「みささの温かさ」を、しっかりと次世代へつなげます。

つくりだそう

これからの時代、町の宝である子どもたちの健やかな成長を応援することはもちろん、小さな町が輝きを増すためには、地域や町を盛り上げる人づくりが大切です。人が育ち、地域が育ち、産業が育つ、“みささスタイル”の町づくりを進め、未来へ羽ばたく「三朝町」を創り出します。

みささスタイル

みささスタイルとは、三朝町の持つさまざまな個性を活かし、三朝町ならではの発想や考え方に基づく取組みを表現したものです。

第3章 分野別将来像と政策の基本方針

新しい町づくりの基本理念を踏まえ、分野別の町の将来像を次のように設定します。

この将来像は、「基本計画」の各行政分野における施策展開の方向性を示し、目標とする10年先のあるべき町の姿をイメージしたものです。

将来像の実現に向け、基本方針を定めます。政策分野を枠組みとした基本計画では、この基本方針に従って各政策分野を展開していきます。

5つの「分野別将来像」

- 1 感性と自立心を育む町
- 2 支え合いでつながる町
- 3 いのちと健康を育む町
- 4 豊かな資源を活かす町
- 5 笑顔で元気に暮らせる町

感性と自立心を育む町

学校、家庭、地域で手を携え、共に頑張る人づくりを進めます。

時代の流れと共に、地域での人のつながりが希薄になりつつある状況の中で、元気な町づくりの柱は「人」です。他人任せ、行政任せではなく、自らが主役となって町づくりに頑張る人材の育成が必要です。

大人がしっかりと学び、町づくりをしていくことが、次代を担う人材の育成に結び付きます。町民一人ひとりが地域とのつながりの中で豊かな感性を育み、主体的に考え、町づくりに参加する人材へと成長しなければなりません。

私たちは、学校、家庭、地域と行政が連携を図る中で共に学び合い、町の未来を担う子どもたちを育てる必要があります。

そして、三朝町で育った子どもたちが、家庭や地域の人たちと共に町を愛する気持ちを育み、将来に向け「住み続けたい」、「帰ってきたい」と思える町を創っていきます。

①みささ教育のすすめ

子どもたちの育ちは、学校、家庭、地域、行政が連携し、町全体が一体となった体制のもとで支える必要があります。

豊かな自然環境や人の輪をはじめとする“みささの良さ”を活かし、確かな学力を身に付け、運動能力を向上させ、人を大切にする温かい心の醸成に努めます。

②ふるさとを愛する人づくり

町の将来を担う人づくりを進めるため、老若男女が年齢に関係なく日々の生活の中で互いに学び合える環境と、それを支える地域の体制が必要です。

温かな笑顔でつながる“みささ”の中で、地域の若者がふるさとの良さを再認識し、「ふるさと三朝」の未来を共に考え、行動していくことを目指します。

③自立と社会参加のすすめ

防災や福祉など住民に必要な施策は、従来の「行政主導」から「行政と住民が協働で取り組む」時代へと移り変わってきています。行政として、生涯にわたって自主的に学び続けることのできる環境を創り、町民が率先して学び、地域づくりなどの社会活動に参加しようとする意識を高めます。

支え合いでつながる町

生活の安全、地域の安全、町民の安心をみんなで創り上げます。

私たちが日々の生活を営むうえで、基本となることは「心から安心することのできる生活環境」です。そのためには、人と人とのつながりに重きを置いた地域の体制づくりが必要です。

私たちは、平成28年10月21日に最大震度6弱を観測した鳥取県中部地震を経験しました。この出来事は、私たちにこれまでの少子高齢化や世帯の核家族化などがもたらした「つながりの希薄化」を気付かせ、家族や地域住民同士の絆の大切さを再確認する機会となりました。

この経験を活かし、町民同士の支え合いの中で、防災、地域での見守り、交通手段の確保といった課題を克服し、将来に向けて誰もが安心して暮らせる町づくりを進めていきます。

①みんなで創る、みささのつながり

安全で安心できる日々の暮らしは、身近な人と人とのつながりで支えられています。防災体制の充実に取り組むことに加えて、いつ発生するかわからない自然災害に対応するため、家族や地域で自主防災体制を整備し、日ごろから共助での取り組みを進め、人と人の優しいつながりによる支え合いを大切にしていきます。

②未来につなげる公共交通

「さんちゅうみたに山中三谷」と称される細長い谷筋に集落が点在する特徴的な地形を持つ三朝町での生活において、交通手段の確保は欠くことのできないテーマです。時代と共に多様化・複雑化する町民ニーズに対し、路線バスによる対応は困難になりつつあります。未来を見据え、持続可能な公共交通サービスの構築に向けた検討を進めていきます。

③安全・安心な生活

上下水道や道路といった公共インフラの維持は、町民の生活に直接つながる重要なものです。行政の責務として、安全・安心な水の供給と排水処理、道路網の維持管理に努めます。

いのちと健康を育む町

子どもから高齢者まで、健康で元気に暮らすことのできる、誰にでもやさしい町を目指します。

本町の高齢化率は38パーセントを超え、本格的な高齢化社会を迎えています。町民各年齢層において健康づくりや疾病予防への取組みを推進するとともに、高齢者が生涯現役で活躍できるよう地域のつながりを基本とする支え合いの中、福祉と医療の連携による環境整備を進めます。

また、子どもを産み育てる環境をしっかりと整え、未来を担う子どもたちが地域のやさしい目で見守られながら、健やかに成長していくことができる町を目指します。

① いのちを育て・守り・支える

町の宝である子どもたちの未来を創っていくのは、今を生きる私たち大人の使命です。行政による子育て環境の充実に加え、子どもたちが大人に成長するまでの過程において、地域の人とのつながりの中で温かく見守られ、支えられることが必要です。地域で育った子どもたちが、次代の町を支えることにつながる取組みを進めます。

②健康長寿のすすめ

高齢化社会を迎え、誰もが望むことは、いつまでも元気に自分らしく地域での生活をおくることです。健康対策、医療体制、地域での見守りといった多面的な支援を充実させながら、長年過ごしてきた三朝町で、いつまでも暮らしていける福祉施策を進めていきます。

③共生社会を目指して

心や身体に障がいを持った人でも、自分らしい生活をおくることのできる町でなければなりません。“みささの温かさ”で、しっかりと支え続けます。

豊かな資源を活かす町

みささの持つ特色ある地域資源を有効に活用し、輝き続ける町を目指します。

本町の主要産業である観光・商工業においては、時代の潮流を読みながら、いつの時代になっても「観光の町」としての誇りを持ち、日本遺産となった三徳山と三朝温泉を中心としながら、地域資源の活用と新たな魅力の発掘・発信に努め、世界に通じる温泉の町として、多くの観光客に喜んでいただける町づくりに取り組んでいきます。

また、農林業においては、中国山地の山々を背景とする環境の中で三朝米や三朝神倉大豆、果樹や畜産などの取組みに磨きをかけ、安定した経営基盤の確立を通じて、稼ぐことのできる中山間地農業を推進していきます。また、広大な森林は本町の大きな資源であることから、木材の生産による林業振興に加え、特用林産物の推進やバイオマス利用などの研究に取り組めます。

主要産業の振興については、5年先、10年先を見据えて事業プランを検討し、時代のトップランナーを目指します。

①観光業の活性化

観光形態の多様化と、インバウンドによる外国人観光客の増加など、観光業を取り巻く情勢は時代と共に変化しています。本町においても時代に即しながら、三朝温泉を中心とした観光資源、豊かな自然環境、魅力的な産物を有する農林業、価値のある文化財など、町の魅力を最大限に響き合わせながら、“みささにしかない新たな魅力づくり”を進めます。

また、広域観光の視点もこれまで以上に重要であり、県内外の観光資源との連携した取組みを進めます。

②商工業の活性化

時代の流れと共に進む道路交通網の整備は、町民の生活圏域の拡大につながり、近隣市町への大型店舗の進出は、町内における町民に密着した商業経営の困難さを招いています。本町の商工業の再生に向けて、国内外からの観光客による経済効果を十分に活かせる体制を構築し、三朝温泉ブランドの確立を進めます。

また、町内に点在する空き店舗の有効利用に向けて、商工会と連携しながら新たな取組みを進めます。

③ 農林業の活性化

町の豊かな自然環境の中で生産される農林産物は、その一つ一つが存在感を持ち、“みささ”をPRできる魅力を持っています。本町を応援していただく多くの方のアドバイスを得ながら、担い手を育成し、新たな発展につなげていきます。

④地域資源の活用に向けて

三徳山投入堂、三朝のジンショといった普遍的価値の高い文化財は、本町にとってかけがえのない宝です。今後は、地域に伝わる伝統文化など、活用できていない貴重な地域資源を掘り起こし、これらに磨きをかけながら、さまざまな分野における“みささの魅力”と交わり響かせ、新たな観光資源としていきます。

笑顔で元気に暮らせる町

“みささスタイル”で充実した暮らしを創ります。

本町では、人口減少や少子高齢化、過疎化といった課題が山積していますが、人と人の交流を通じて、気持ちを前向きにしながら、笑顔で元気に暮らせるまちを目指すことは、日々の暮らしを豊かなものへと変えてくれます。

町民が力を合わせて、楽しい三朝の暮らしを創造することが必要です。異世代で取り組む町づくり活動や地域コミュニティの再生、国際交流による異文化との交わりや国内交流の推進など、人と人の気持ちのつながりを活かした、“みささスタイル”での豊かで楽しい暮らしを創ります。

① “みささらしい暮らし” を創る

三朝町での有意義な暮らしを実現するためには、町の持つ魅力を受け入れ、積極的に活かす姿勢が求められます。人との出会いや交わりを通じて、三朝ならではの魅力を暮らしの中で共有し、豊かな“みささ暮らし”を実現します。また、この暮らしを町の新たな魅力として発信し、移住・定住の推進につなげます。

② つながりを大切にする地域づくり

三朝町での暮らしは、豊かな自然と地域における良好な人のつながりがもたらす温かいものです。時代の流れと共に集落の人口が減り、この暮らしがままなくなってきました。集落や地域における人のつながりを再生し、一層大切にしながら、三朝の温かい暮らしを守っていきます。

第4章 構想の推進にあたって

町民の行政需要は、社会・経済情勢の変化や年齢層別の町民意識の違いにより多様化が進んでいます。また、IT技術の発展による地方経済への弊害と消費需要の多様化により町内で消費を完結することが困難となっており、町民の生活は鳥取県中部地域、県内全域へと広域的なものとなっています。

このような状況を踏まえ、次の基本的な姿勢のもと、基本構想の実現に向けた町政を展開していきます。

1 効率的でわかりやすい行財政運営

社会・経済情勢を的確につかみ、事務の合理化と効率化を進め、町民の多様な行政需要に対応できるよう柔軟な行政組織の運営に努めます。

町民の期待や要望に応えることができるよう、行政の専門家としての職員意識の確立に努めます。

限られた財源の中、長期的な視点に立った政策を進め、効率的な行政運営に努めます。

2 広域連携（生活圏域連携）

共通する行政課題と広域的に取り組むべき行政需要に対応するため、生活圏域である鳥取県中部1市4町で連携を図り、効率的な広域行政を推進します。

本町が抱える多くの行政課題の解決にあたり、国・県・関係機関と連携を図り、相互の協力体制を確立します。

3 構想と計画の推進

構想と計画を実行性のあるものとするため、町民の主体性を育て、行政と町民による共働の体制づくりを強化します。

基本計画においては、本町の実態に合わせた施策が着実に実施されるよう進捗管理を徹底し、常に社会情勢を的確に捉え、見直すべきは見直す体制をつくりまします。また、町民と行政が意見を交換できる体制を構築し、新たな視点による行政施策に向けた意見やアイデアを大切にし、“みささらしい”町づくりに努めます。